

項目	統合について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	（統合校の）場所は今の鳴子中になるのか。	そのように検討したいと考えているが、検討したいということであり、決定していることではない。本日のPTA役員の方、保護者の方、地域の方、学校の先生方、これから小学校へ入学する子供をお持ちの幼稚園の保護者の方々への説明をし、御意見を頂戴し総合的に統合、統合校の建設場所等について判断を進めていきたい。鳴子温泉地域では、川渡地区、鳴子地区、鬼首地区の地域の皆様の御意見をいただき、できるだけ寄り添って進めていきたい。
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	前回の説明では、ここに（川渡小の敷地に）小学校を置きたくないのかという話があった。ただ現実的には一貫した施設の方が予算面など、様々な面でいいと考える。そのときに、橋はどうなるか、学童保育は、児童館は、公民館は、幼稚園は取り残されるのかということなどについて質問をした。その後自分自身が振興会等の役員もしているの、橋の件は先ほどの回答と同じことをほかの会議でも聞いている。	例えば、統合校が現在の鳴子中学校の場所に建設が決まったとする。それに伴い、地域の公的な施設も移転するのかということについては今の段階では分からない。まずは、小学校のことで、児童数の推移等を勘案し、鳴子中学校周辺の場所に統合校ができればいいのではないかと考えている。その場合に大橋も継続して使用できれば利便性が上がると考えられる。もし、大橋の継続使用ができなくなるようであれば、別の視点で考える必要も出てくる。いろいろな御意見をいただくためにもこのような話し合いの場を何度も設けていこうと考えている。
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	前回の話し合いでは統合の対象校として鬼首ははずすという話だったが、今回の話し合いでは3校で進めるという。それでよいのか。	可能性を探るといって話を進めている。新しいバイパスも開通し、中学生はスクールバスで通学している。また、鬼首地区の児童の居住分布は原台近辺がほとんどであり、鬼首の西方等から通学している小学校児童はいないのが現状である。26年度の説明会、また、指針を作成した24年度と比べると状況の変化が大きい。小規模特認校として独立させることは、言葉を選ばずに言わせてもらうと、鬼首地区を取り残すことにもなりかねない。ならば、適正規模の理想的環境の中で、学校生活を送っていただければいいのではないかと考えている。
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	統合校の建設場所としては川渡小の敷地という意見はないのか。	現実を見ると鳴子中学校の敷地が妥当だろうと考えている。現在の川渡小学校だと体育館も校舎も老朽化しており、新しい鳴子中学校の使用は仕方ないと考えている。ただ、小学校が閉校した後のことを考えると、小規模ながら温泉街でもあるし、閉校後しばらくは廃屋として学校が残り、そこに幼稚園もあるのではと考えるとイメージ的に心配はしている。
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	保護者の中にはこの問題についてしっかりした御意見をお持ちの方もいるが、直接教育委員会に問い合わせをするように話をした方がいだろうか。	6月29日のPTA行事の際に、本日より内容を説明する予定だ。その時を初回とさせていただく。
平成30年7月20日	川渡幼稚園保護者会	統合へ向けては話し合いを行って行くことは理解した。いよいよ、鳴子地域の統合に入るのか。	今後の話し合いと共に、建物のこともあり、古川地区の方が先になることもあるだろうし今の段階で即答はできない。
平成30年7月20日	川渡幼稚園保護者会	統合後の子供たちの適応状況等については教育委員会として把握しているか。	統合後3年間は、ハイパーQ.U.T.E.S.Tというものを1年間に2回実施し、子供たち一人一人が学級の中でどのような適応状況なのかを把握している。鹿島台小学校と岩出山小学校では実施している。中山小学校統合後の鳴子小学校では実施していない。
平成30年7月20日	川渡幼稚園保護者会	岩出山小学校の保護者からは統合によるメリットもデメリットも聞こえてくる。鳴子中学校の現状には必ずしも安心できる要因ばかりではないので、統合への不安はある。教育委員会でも鳴子中学校への指導を考えていただいた後で統合ということであれば保護者も安心だろうと思う。また、小学校が中学校へ移るのであれば、幼稚園だけが残ってしまい、不安が増してしま。また、学童クラブも校舎内の教室等を使用して運営してもらいたいと思う。	いただいた御意見を今後の検討に生かしていきたい。
平成30年9月18日	川渡公民館	鬼首地区の方々はどうにお考えなのか。	今年度で開催された保護者全体説明会では、例として出した小中一貫教育に興味を示す方、やはり学校が無くなることを不安に思う方、様々な思いを聞くことができました。
平成30年9月18日	川渡公民館	学校が無くなるのは、非常に残念なことであるが、子どもが今後増える見込みがないことから、統合はやむを得ないと思う。	
平成30年9月18日	川渡公民館	鳴子中学校は、設備も整っているの、改築を行い、統合校として十分活用できると思う。	

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年9月18日	川渡公民館	道路が整備され、鬼首小学校付近から川渡地区まで、約20分で来るということも聞いた。実際に、中学生は鬼首地区から鳴子中学校まで通っており、保護者の意識も変わって来ているのではないかと。	平成26年度には、鬼首小学校の小規模特認校も検討すると地域住民及び保護者に説明をしました。しかし、道路状況が変わり、実際に中学生がスクールバスで鳴子中学校に通っていることを踏まえ、やはり鬼首小学校を含め、3校での統合が望ましいのではないかと考えています。
平成30年9月18日	川渡公民館	鬼首地区について、高齢者はやはり学校がなくなると地域の衰退に繋がると言うが、子ども達のことを考えると、中学校では、3つの地域が一緒になるので、小学校も一緒に統合してほしいと思う。	
平成30年9月18日	鬼首公民館	もちろん地域から学校がなくなるのは寂しい気持ちでいっぱいだが、子ども達のことを思うと、保護者の気持ちを大事にしていきたい。	
平成30年9月18日	鬼首公民館	昔は、小学校くらい地区に残せという統合反対運動があったが、今回は大丈夫なのか。	これまで各校での平成29,30年度に開催した保護者役員会、保護者全体会では、特に大きな反対の意見は聞かれませんでした。しかし、これから地域住民の皆様にも説明することになりますので、様々なご意見が聞かれると思います。
平成30年9月27日	幼小中園長校長館長会	統合校の場所について、現在の鳴子中学校の校舎を活用することにより、一から校舎を建設する手間が省けるので、一番現実的だと思います。	
平成30年10月11日	鳴子地域づくり役員会	鬼首地区の若い保護者の中には、鬼首小学校の人数が少なすぎるので、学校として機能を果たさないのではないかと考えている方もいるようだ。	
平成30年10月11日	鳴子地域づくり役員会	学校の統廃合問題は、保護者及び子どもの問題なので、地域づくり委員会は関係ないのではないかと。	地域の代表として、まずは皆様にお話ししたいということで、委員長、副委員長に日程を調整していただき、今回の意見交換会に至りました。今後も保護者及び地域住民の方々と意見交換をしながら、鳴子温泉地域の教育環境について考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	地域住民は、もちろん地域活動の拠点になっている学校が無くなることに強い不安を感じているが、若い世代のことを考えると統合はやむを得ないと考えるだろう。	
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	鬼首小学校を含めた3校での統合が望ましいと思う。	
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	仮に3校での統合となった場合、3地区から子ども達が集まってくるので、事前に交流ができる機会を作るなど、子ども達が戸惑わないよう統合までの下準備をしっかりとっていただきたい。	
平成30年10月15日	中山コミ連役員会	他の保護者から小学校の校庭は、職員室から見える場所でないといけないと聞いたことがあるが、実際はどうなのか。	もちろん職員室から校庭が見える場所であることが一番望ましいが、レイアウト上やむを得ない場合もあるので、必ずしもそうでないといけないとは決まっているわけではありません。
平成30年11月6日	川小PTA座談会(沢石の梅、向山地区)	統合になった場合、各小学校の特色が無くなってしまわないかと寂しく感じる。	
平成30年11月6日	川小PTA座談会(沢石の梅、向山地区)	仮に児童が現在の鳴子中学校に通うことになった場合、人通りが少ない地下道(47号線)を通らせるのはとても不安を感じる。	地下道には、緊急時のために、外に知らせるボタンがあり、地下道の入口付近のランプが点滅するように出来ています。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小規模には、小規模なりの良いところがあるが、切磋琢磨しながら社会性を養っていくため、一定規模以上の必要性も感じる。	
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小学校4年生、1年生、幼稚園年長の子どもがいるが、小さいところより大きなところで、様々な子ども達とふれあえる環境が良いのではないかと。	
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	生徒数の関係で、旧川渡中学校にやりたい部活動がなかったため、旧鳴子中学校に指定校変更していた生徒もいたため、小学校の統合に伴い、部活動の数も増えるのではないかと期待している。	
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	人数が多くなるので、統合後の子ども達のケアをしっかりとっていただきたい。	ご意見として頂戴いたします。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小学校の統合に伴い、メリット及びデメリットが出て来るので、メリットはさらに伸ばし、デメリットには、きちんと対応出来るよう岩出山地域の小学校統合を参考により良いものにしていければいいと思う。	ご意見として頂戴いたします。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	統合に伴い、地域との繋がりが薄れるのではないかと。	
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	人数が増えることで、いじめ等の子ども間のトラブルが心配なので、しっかりケアができる体制を構築していただきたい。	ご意見として頂戴いたします。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	地域の皆さんと関わることが出来るようなカリキュラムを作っていただきたいと思う。	ご意見として頂戴いたします。
平成30年11月13日	川小PTA座談会(鍛冶谷沢, 上川原地区)	今後は、どのようなスケジュールで統合に向かうのか。	具体的なスケジュールはまだありませんが、今後、保護者及び地域の皆様と話し合いを重ねながら、統合に向かっていきますので、ハード整備期間を含め、最低でも3年はかかると思います。
平成30年11月13日	川小PTA座談会(鍛冶谷沢, 上川原地区)	統合に伴い、夏季休暇期間のプールの利用は制限されるのか。	岩出山地域では、地区ごとに割り振りをして、スクールバスを運行し、プールを利用させていました。利用する人数によって、利用方法も変わってくるので、具体的な内容は、統合後に学校で決めていくことになります。
平成30年11月13日	川小PTA座談会(鍛冶谷沢, 上川原地区)	鬼首小学校を含め、3校での統合が望ましいと思う。	
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	松山地域の小学校統廃合は、なぜ進展しないのか。	統合を進めることについて、下伊場野小学校の保護者、地域の皆様からご理解がいただけていないからです。今年度は、下伊場野小学校の保護者と2回意見交換を行いました。が、現状のままでいいという回答だったので、引き続き協議していきたくと思います。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	統合後の子ども達の心のケア、統合校の教員の配置等をしっかり検討していただきたい。	岩出山小学校では、今回の統合に伴い、スクールカウンセラーに加え、代替養護教諭、事務職員、教諭がそれぞれ1名ずつ、教員補助員6名を増員し、配置されている状況です。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	統合して人数が増えても、地域の皆様と関われる活動を継続していただき、地域に根差した学校づくりを行っていただきたい。	ご意見として頂戴いたします。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	各学校には、それぞれの良いところがたくさんあるので、上手く活用し、統合校の特色として出していただければいいと思う。	
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	鬼首小学校を含めた鳴子温泉地域3校での統合が望ましいと思う。	
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	色麻学園の図書室は、一般の方も出入りが出来るよう児童及び生徒とは別な出入口を設け、一般の方々にも本の貸し出しが可能になっていると聞いた。例えば、保護者が子どもを学校に迎えに行った時、気軽に図書室を利用できるのであれば、保護者にとってもメリットがあると思う。	古川南中学校でも、同じように一般の方々が出入り及び本の貸し出しが可能になっています。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	鳴子温泉地域が統合しても、学校教育環境整備指針に明記されている小学校12学級以上中学校9学級以上という標準的な規模にはならないが、人数が大幅に増えるわけではないので、戸惑う子どもが少なくないと思う。	
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	現川渡小学校では、特別支援学級、通級学級の子ども達に対して、とても熱心な指導が受けられている。その指導の内容が、統合しても継続して、受けられるのかとても心配している。	
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	鳴子中学校の統合時に、自分の子どもがいたが、各学校の保護者の強力な協力体制もあり、子ども達はスムーズに統合校に溶け込めていたようであった。	
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	仮に統合に向けて進んでいくとどれくらいの期間が掛かるのか。	3～4年は掛かるだろう。岩出山は3年掛かったが、それでも早いと感じた。設計、予算、工事等、時間が掛かる。もし鳴子中学校を使うことになると、例えば小プールなども必要になる。また、厨房を広くする必要もあり、その分ランチルームが狭くなり、給食は各教室で食べることになるかもしれない。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	子供の人数を考えると統合は仕方ないと思うが、子供の心のケアはどうなるのか心配だ。	鳴子地区では支援学級の運営に定評があり、それを引き継いで新しい学校に生かせると考える。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	鬼首に住まいをしており、孫が支援学級に在籍している。今のままで満足だ。	
平成31年1月20日	鳴子中PTA役員会	統合校の場所はどこを考えているのか。	鳴子中学校を考えている。今後は施設整備やスクールバスなどについても考えていかなければならない。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	岩出山地区は統合が決まって、実際に統合するまでどれくらい期間があったのか。	およそ3年かかった。最後の一年は詳細な事柄について話し合いを行った。当初は29年度の開校予定だったのが30年度にずれ込んだ。統合が決まっても細かい事柄について課題となって出てくるので、その対応に時間がかかる。岩出山は開校一年前に統合準備委員会の中でスクールバスの乗降場所の選定、用地買収、駐車場等の周辺整備について話し合われた。
平成31年1月30日	鳴子小PTA役員会	大崎市内の統合を進めている地域では進捗状況に違いはあるのか。	古川北部地区は1月24日の北中PTA役員への説明で第1段階が終了し、これから合同検討委員会の人選に入る。古川西部地区は1月25日の志田地区地振興協議会役員への説明で第1段階が終わり、今後合同検討委員会の人選依頼に入る。鳴子地区は各小学校のPTA役員への説明は本日で終わり、これから鳴子中のPTA役員会の説明と鳴子地区の各振興協議会への説明に入っていく。ちなみに、北部地区は長岡小学校を統合校として検討している。西部地区は古川西中に小中一貫校として統合校を検討している。
平成31年2月22日	川渡カトリック保育園保護者説明会	統合を前提にした話し合いをしていると思うが、統合しないという考えもあるのか。	統合を推進したいと考えており、統合しないという考えはない。
平成31年2月22日	川渡カトリック保育園保護者説明会	今後の児童生徒数減少を考えると岩出山と統合することもあるのか。	岩出山に小学校と中学校が一つずつ、鳴子も小中一貫校として小中一つずつと考えており、岩出山と鳴子との統合は考えていない。地域、保護者の方との話し合いでも統合に向かおうという意見が多く聞かれる。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	川渡小学校のPTAは7地区だが、中学校になると川渡地区は3地区になる。	岩出山の場合はPTAの地区割りは中学校の区割りを使って、子供会は今まで通りの区割りで行っている。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	鳴子はPTAの交流もあるだろう。	PTAの交流は連絡協議会として事業を行っているが、単Pの事業に他校のPTAを招いたりしている。また、バレー大会も行っている。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	自分の子供は特別支援学級に在籍しているが、川渡小学校は特別支援教育が充実している。細かな対応をしてもらっており安心だ。しかし、中学校でどうなるか心配だ。小中一貫校となり、連携がとれればいいと思う。	
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	統合後の学校の名前はよく考えた方がいいだろう。継続した名前を使うと吸収合併されたように思うだろう。他市では宮野森小学校のように、「宮戸小」と「野蒜小」を統合して新たな名前にした学校もある。	
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	子供にとって学校がどうあるべきかを、ぶれないように進めることが大切だろう。	その通りだと考える。目の前のことだけでなく、もっと先を見通して、他地域も見て、広い視野で考えて推進することが大切だ。
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	気仙沼の馬籠では、保護者は統合に賛成意見を出していたが、地域の方々は反対だった。統合を進める手法として、大崎市はとても丁寧だと感じている。	慎重に考えている方が鬼首にはいる。指針では、31年4月には統合予定だったが、それまでに、鹿島台、岩出山の統合に当たっていたので時間的に無理だった。
平成31年4月18日	鳴子総合支所説明	将来的に、鳴子中学校で活動できる部活動がさらに限られてくると思う。	3月に視察に行った関上小中学校は、学校としての特色をいかし、学区外から入学を希望する子ども達が多くなりました。同じように本市でも、特色を出し、学区外から入学を希望していただけるような学校づくりを目指していきたいと思えます。
平成31年4月18日	鳴子公民館説明	統合後の具体的な教員の配置等を保護者にしっかり示していくべきである。	岩出山小学校には、代替養護教諭、事務職員がそれぞれ1人ずつ増員されており、教員補助員も各学年に配置した経緯があります。具体的な話はこれから協議していくことになります。
令和1年9月18日	川渡小PTA役員会	学校再編の前任者の説明を受けた際、鬼首小学校は統合の対象に含まれていなかった。今年度の説明会では、統合の対象に鬼首小学校も含めるとのことだが、いつからそのような方針に変わったのか教えていただきたい。また、この内容について、鬼首小学校の保護者に説明をした際の反応はいかがなものであったか。	平成30年度になってから、鬼首小学校も含めた統合の話を出させてもらっています。また、鬼首小学校の保護者の反応についても、特に強い反発等はないものと感じています。今後も丁寧に説明したいと思えます。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
項目	小中一貫校について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	小学校12学級以上、中学校9学級以上というのが大崎市が目指す目標か。鳴子中は(学年)1クラスしかないのが現状である。以前、中学校で統合についての説明会があったとき、鳴子中は人数が少ないので岩出山中に通うことになるのか心配をした。そこで、小中一貫校になれば鳴子中を現状で維持できると考えたのだが。	岩出山中と鳴子中との統合は当分はない。目指しているのは今の鳴子中の位置方面で小学校の統合校を考えている。小中一貫校も想定しており、増築等も考えている。
平成30年9月18日	鬼首公民館	小中一貫教育の利点はどのようなものか。	先日、近隣の小中一貫校である色麻学園、金成小中学校を見学に行ってきましたが、どちらの学校でも、中学生が小学生の良きお手本になっており、小学生、中学生ともに落ち着いて、学習が出来ているとのことでした。例えば、中学校の理科や英語の教員が、小学校の高学年の授業に乗り入れして、より専門的な授業を小学校の教育課程に取り入れることも可能になります。
平成30年9月27日	幼小中園長校長館長会	資料2ページの小規模特認校制度の検討、小中一貫教育の検討、小中連携教育の検討と記載されていますが、さらに詳細な資料はありますか。	こちらの資料の内容は、大崎市学校教育環境整備指針から、抜粋しており、さらに詳細な資料は特にありません。小規模特認校制度とは、離島に学校がある場合など、地理的な条件で統合が難しい学校をそのまま残して、地域の特色を出しながら、学校を存続させていく制度になります。県内には、栗原市立花山小学校、塩竈市立浦戸小学校があります。小中一貫教育については、小学校6年間、中学校3年間合わせて9年間を通した、教育課程を作成することが可能になります。また、先日、色麻学園、金成小中学校を見学してきましたが、中学生は小学生の良きお手本になるという意識が働き、中学生に対する生徒指導は何ら問題ないとのことでした。
平成30年10月11日	鳴子地域づくり役員会	今回の統合で、小中一貫校となるのか。それとも、まずは小学校を統合し、将来的に小中一貫校を目指していくのか。	正式に決定していませんが、鳴子中学校の校舎を活用し、小中一貫校を目指していきたいと保護者に話をしている。新しくバイパスができ、道路状況が変わり、実際に鬼首地区の中学生がスクールバスで鳴子中学校に通っていることを踏まえ、やはり鬼首小学校を含め、3校での統合が望ましいのではないかと考えています。
平成30年10月11日	鳴子地域づくり役員会	小中一貫校となると金成小中学校のように施設(プール等)を整備しなければならないと思うが、現在の鳴子中学校を活用し、小中一貫校としてやっていけるのか。	現在はまだ詳しいことは、お話し出来ませんが、当然施設整備は、今後考えていかなければなりません。いずれ、たたき台となる案をお示しし、皆様からご意見をいただいきたいと思います。
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	小中一貫校の色麻学園について、子ども達の様子が非常に安定していると聞いたことがあるが、実際どうなのか。	先日、色麻学園、金成小中学校を訪問し、学校の様子を見学してきました。小学生と中学生の関係性が非常に良く、とても落ち着いて学校生活を送っているなど感じました。
平成30年10月15日	中山コミュ連役員会	七合宿町は、まずは小学校を統合し、数年後、再び施設を改修し小中一貫校となったが、年数、改修費用が余計にかかったと認識している。いずれ小中一貫校を目指すのであれば、小学校の統合と一緒に進めていくことが望ましいと思う。	ご意見として伺いました。
平成30年11月6日	川小PTA座談会(沢、石の梅、向山地区)	仮に小中一貫校となった場合、小学1年生から中学3年生までが一緒に学校生活を送る中で、小中一貫校ならではの交流が出来る等、良いところはたくさんあるが、その反面、いじめや不登校が増えてくるのではないかと心配する保護者もいる。	ご意見として伺いました。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小中一貫教育について、どのようなものか。	色麻学園で教員をしておりますので、現状をお話しします。小中一貫校のメリットとして、小学校から中学校に上がった時に生じやすい <b>中1ギャップの解消</b> が見込めます。小学校では担任が全教科を教えていましたが、中学校になると教科担任制になります。また、先輩後輩という縦の関係性が出てきますので、子ども達の間関係がより複雑になってきます。小中一貫校になると、中学校の教員が小学校の授業に乗り入れして、より専門的な授業を実施することが出来ます。小学校の教員が、中学校に上がっていった生徒の様子を引き続き見ることが出来ますので、 <b>小学校から中学校に上がっても安心して学校生活を送ることが出来ます</b> 。色麻学園は、職員室が小中一緒なので、密な情報共有が可能となり、手の掛かる子どもに対して、適切に対応することが出来ます。さらに、小学校1年生から中学校3年生までの9年間、縦割り活動が可能となります。色麻学園は現在2クラスですが、鳴子温泉地域は、統合しても各学年1クラスにしかならないので、人数的に縦割り活動がやりやすい環境であると思います。対話的な学習の目的として、それぞれの子どもの意見を聞き、それぞれの立場から考え、最終的に皆がより良くなる方向に考えられるような人材を育てていくという内容になっています。そのため、小規模であると、考えが偏ってしまうため、ある程度の人数が必要であると思います。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小学校のみで統合しても、複数クラスになるわけではないので、小中一貫になれば、学校として出来るが増えると思います。	ご意見として伺いました。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小中一貫校で職員室が小中一緒だと子ども達の情報共有がより密に出来るので、学校全体が安定するのではないかと。	ご意見として伺いました。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	統合しても中学生の人数が増えるわけではないので、小中一貫校にして、小学校高学年から、部活動に参加出来るようにすれば、大会には出られないが、活動自体は出来ると思う。	ご意見として伺いました。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	小中一貫校になれば、中学生は小学生の面倒見が良くなり、年上としての自覚が芽生えてくるのではないかと。	ご意見として伺いました。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	色麻学園のように、小学1年生から中学3年生までの縦割り活動が出来るのは、素晴らしいことだと思います。上の子が下の子の面倒を見て、情操教育にも繋がると思っていますので、ぜひ小中一貫校を目指し進めていただきたい。	ご意見として伺いました。
平成30年11月13日	川小PTA座談会(鍛冶谷沢、上川原地区)	子どもの送迎も一緒に出来るので、小中一貫校が良いと思います。	ご意見として伺いました。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	統合するのであれば、現在の鳴子中学校の校舎を活用し、小中一貫校にしてください。	鳴子中学校を活用しての小中一貫校ということになれば、普通教室や小学生用のプールの増設等のハード整備が必要になってきます。
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	今後、統合した場合に小中一貫校として進めていくのか。	鳴子中学校を活用して、鬼首小学校を含めた小中一貫教育を進めることができないかと考えている。
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	小学校から中学校まで9学年あるが、その子供たちが一つの校舎で活動するとなると大変だろうと思う。まず統合をして、一段階置いて、その後小中一貫教育に移るのか。	一段階置かずには統合と同時に小中一貫教育を進める考えです。鬼首のことは鳴子温泉地域内の他地区の方から話が出される。現在鬼小に通学している子供たちはほとんど学校周辺に居住している子供たちだと聞いている。しかし、今後岩入地区にも子供が生まれる可能性はあるということで対応しくことが大切だろうと、地域への説明会でお話をされた方もいらした。
平成31年2月22日	川渡カトリック保育園保護者説明会	小中一貫校にはどのようなメリットがあるのか。また、県内にいくつの小中一貫校があるのか。	県内の小中一貫校は近隣では色麻学園、金成小中学校がある。その他にも6校あり、今現在小中一貫校は8校ある。メリットとしては、小中一緒で9学年の児童生徒が学ぶことで、いわゆる中1ギャップが見られないということがある。例えば小規模校から大人数の中学校に入学すると馴染めない子供がいるが小中一貫校では小学校の先生が継続的に中学生に接することができるので子供たちも安定しているようだ。また、小学生は中学生に憧れ、中学生は小学生を優しく面倒をみる、などのこともあり、小中一貫校の傾向としては小学生、中学生のどちらにとっても良い面が見られるようだ。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	小中一貫校をつくる考えで進めているが、小中一貫校についてどのようなイメージを持っているか。	学校によっては小学校の入学式と中学校の卒業式はあるが、小学校の卒業式、中学校の入学式をしない小中一貫校もあるようだ。ただ、節目として小学校4年生で二分の一人式、中学校2年生で立志式を行ったりしているようだ。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	授業参観は一日で済む、懇談会も。PTAも小中一つ。小中一貫校にはメリットが多いかもしれない。	小中一貫校になると小学校の先生が中学生も見てくれる。生徒指導上の問題が発生しても解決に向けて協力してくれる。部活動も小学校から体験可能だ。閉上小中学校では年間2回の部活体験期間があり、その2回の体験期間に違う部活を体験する子供もいるようだ。学習指導面でも中学校の先生が英語や理科を高学年に指導することもできるようだ。
平成31年4月18日	鳴子総合支所説明	仮に小中一貫校となった場合、中学校に上がる際に、県立の黎明中学校や他の学校に指定校変更することは可能なのか。	可能です。ただ、子ども達が他の学校に流出しないよう、特色を出した学校づくりを目指していきたいと思います。
令和1年9月18日	川渡小PTA役員会	鳴子温泉地域について、人口減少が著しいため、統合後も必ず複式学級が始まるだろう。9年制の義務教育学校の場合、6年生と7年生の複式学級が編成される可能性も考えられる。児童も教員にも負担がかかるだろう。義務教育学校ではなく、併設型の小中一貫校の方がよいのではないかと考えます。古川西部地区と同じような方向性だと難しいのではないだろうか。	古川西中学校区の小中一貫構想(案)は、あくまでも参考資料としてお出しした次第です。いただいた意見を基に、検討したいと思います。

項目	学校づくりについて		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年9月27日	幼小中園長校長館長会	昨年度から本校は、鳴子小学校と合同で修学旅行に行っており、保護者及び子ども達の評判が良かったので、今年も継続して合同で修学旅行に行く予定です。	今後も児童間の交流にご協力をお願いします。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	鳴子温泉地域の子ども達を今後どのように育てていくのかを考えていく必要があり、他の地域で出来ないような鳴子温泉地域独自の教育内容を目指していけば、子どもの数も増えるのではないかと。	ご意見として伺いました。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	例えば、1学年40人未満であっても、2クラスにする等、鳴子温泉地域にしか出来ない特色を出していけば、他学区から希望して来る保護者も出て来るのではないかと。	ご意見として伺いました。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	学校づくりと地域づくりを完全に切り離して考えることは難しいことだと思うが、地域と一緒に協力し合える教育環境を目指していく必要がある。	ご意見として伺いました。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	子供が今後増加する可能性は高いとは言えない。鳴子全体で少子化である。子供のことを考えると、数多い子供の中で勉強をさせ、安全な生活をさせたい。いろいろな意見を取り入れて進めてほしい。	ご意見として伺いました。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	小から中への子供の引き継ぎはとても丁寧に行っている。	統合するときには、子供と一緒に統合校へ転勤する先生方もいる。そのように子供のケアを行っている。

項目	合同検討委員会について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	今後開催予定の合同検討委員会について、委員の人数を増やすことで、様々な意見を聞くことが出来ると思う。	ご意見として伺いました。
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	合同検討委員会について、例えば、部会を設置し、さらに詳細な内容を検討していく方法も検討していただきたい。	合同検討委員会は学校統合についての合意形成を目的としています。詳細な検討については、合意を得た後に統合準備委員会を設置し、統合準備委員会及び各部会で検討していくこととなります。
平成30年11月12日	川小PTA座談会(川渡地区)	合同検討委員会について、委員の人数、会議の回数を増やして、時間をかけて検討していくべきではないかと。また、今後、パートナーシップ形式の会議を開催してみてもどうか。	ご意見として伺いました。
平成30年11月30日	川渡小PTA役員会	未就学の親も検討委員のメンバーにするというスタンスはないのか。	今のところは考えていません。
平成30年11月30日	川渡小PTA役員会	地域づくり委員会の方々には若い方がいない。そのような中では小学校の保護者はなかなか発言ができないのではないかと。	確かに、岩出山での経験からすると、話し合いのやりにくさがあるのは事実ですが、学校のこのことのみでなく、地域のこととして考えていただきたい。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成31年1月20日	鳴子中PTA役員会	合同検討委員会のスタンスは、小中一貫校をつくること、鳴子温泉地域の統合は鬼首を含めて進めること、これらについて話し合うことでいいのか。	ご指摘のとおりです。
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	合同検討委員会が設置されるとなると未就学の親はどう考えるだろうか。未就学の親の意見を吸い上げてほしい。	あくまで、現小学校の保護者を第一の対象として説明を進めている。今後、未就学の保護者への説明も予定している。また、新年度には市の広報と一緒に話合いの内容を全戸に周知していきたいと考えている。統合に関するアンケートは実施せず、意見交換をしながら最終的な判断をしていきたい。
平成31年4月19日	鳴子小保護者説明会	合同検討委員の選出について伺いたい。委員には、鳴子のことをよく分かっている方、鳴子出身の方になってもらいたいと思う。	各団体から2名の委員と考えているが、鳴子出身でなくとも鳴子のことをよく分かっている方の選出をPTA会長にお願いしたい。
令和1年6月18日	鳴子地域づくり委員説明会	教委が全地域で話合いを行うのは大変だろう。まちづくり協議会で合同検討委員会の話合いを行うべきだ。	まちづくり協議会ではまだ協議していない。各地域づくり委員会で広く意見交換会を行っている状況である。
令和1年6月18日	鳴子地域づくり委員説明会	統廃合の詳しい内容については、合同検討委員会やこれからの話合いで議論すべきではないか。それと並行し、まちづくり協議会にもアプローチをして連携を図っていいのではないか。	話が進んだ段階で機会を見ながらこのような話合いを行ったり、広報誌などでも情報提供、共有を図っていくつもりです。
令和1年6月28日	川渡小保護者説明会	合同検討委員会の委員に未就学児の保護者からの選出はないのか。	小学校、中学校のPTAの中で未就学児の子供を持つ保護者の方を選出してもらうように依頼している。

項目	跡地利用について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年7月20日	川渡幼稚園保護者会	跡地利用はどのようにするのか。	各小学校区で地区ごとの話合いが持ちながら検討を進めている。 ↓ 現在、政策課に小学校跡地利用調整担当を配置し、地域や企業等、その方向性について調査・調整を進めている。 (第1回合同検討委員会)
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	閉校後の校舎の跡地活用について、どのように進めていくのか。	統合が決まりましたら、検討していくこととなりますが、具体的な検討方法については、まだ決まっておりません。
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	鳴子小学校では、毎年こけし祭りが行われており、使用する道具を学校外(上野スキー場等)に保管している。閉校後の鳴子小学校を活用することで、こけし祭りを継続しながら、道具を学校内に保管することが出来る。また、教室一室を活用し、こけし館を作ることはできないか。	ご意見として伺いました。
平成31年4月18日	鳴子総合支所説明	鳴子総合支所の移転に伴い、現在の総合支所の跡地活用を検討していかなければならないが、同じように小学校の跡地活用についても、検討していく必要がある。	岩出山地域は、閉校後の校舎等について、跡地活用検討委員会を立ち上げ、検討している段階です。また、体育館については、閉校前まで一般開放で利用していた団体のみ、継続して利用できるよう貸し出しを行っています。鳴子小学校には、学童保育が入っており、子育て支援課との調整が必要ですし、跡地活用の検討組織、検討方法等を協議していく必要があります。

項目	学童保育について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年11月13日	川小PTA座談会(鍛冶谷沢、上川原地区)	統合に伴い、学童保育はどのようにするのか。	岩出山地域では、各地区に学童保育があり、統合後も運営していただくよう運営委員会にお願いし、継続して運営していただいております。また、学童保育の利用者のため、下校時のスクールバスの停留所に各地区の学童保育を加え、運行しております。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	川渡学童保育は、定員より10名多い子どもたちを受け入れているが、統合後の学童保育についても考えていく必要がある。	川渡学童保育は、川渡地区公民館で運営しており、17時までには児童館、その後学童保育という取り扱いで運営している。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	もし、現中学校の場所に小学校が移転してきたら学童保育の場所はどうなるのか。スクールバスで通うようになるのか。小学校移転と共に学童も児童館も併設されるといいのだが。	今の児童館の状況は登録者が多いと聞いている。この際、統合校と一緒に建設することも考えなければならないのかもしれない。岩出山の場合は、小学校から下校時にスクールバスに乗せて各地区の学童まで送っている。岩出山小学校にある学童はスペースが小さくて全員を預かることはできない。川渡も子供が多いので全員入るのは無理があるだろう。どのようにできるのか話題にしていきたい。鳴子温泉地区では、鬼首には学童がなくて、鳴子は小学校校舎に学童がある。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	川渡・鳴子地区には地元の職場がない。職場から子供たちを迎えにくるまでには時間が掛かるので、学童で延長してもらい午後7時までになった経緯がある。	ご意見として伺いました。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
項目	川渡大橋について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会		前回の説明会（29年11月9日）で川渡大橋についての質問があったようだ。（課に）確認したところ、現時点では取り壊しについては決定的な話にはなっていない。現状の橋を耐震化工事、補修等で修繕をしながら当面の間維持をしていく。いつまでという期間は不明であるが、修繕をしながら現状を維持することになる。
平成30年10月15日	中山コミ連役員会	地域の皆様は、川渡大橋への関心が非常に高いので、今後どのようにするのか、随時担当課に確認していく必要があると思う。	ご意見として伺いました。
平成30年11月6日	川小PTA座談会（沢石の梅、向山地区）	川渡大橋が無くなると噂になっているが、実際はどうなるのか。	補修、維持管理をしながら川渡大橋を残していくのか、それとも新たに建て替えるのか、橋の残し方について、地域住民に対して説明が行われています。
平成31年1月20日	鳴子中PTA役員会	川渡大橋はこれからどうなるのか。	建設担当の部署に確認したところ、今の大橋を補修して維持していくそうです。

項目	教育環境整備について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	統合後に給食を供給する場合は鳴子中学校の施設を使用して自校給食となるのか。	鳴子中学校の給食施設を使用する計画です。学校給食基本計画の中に鳴子中学校給食施設のセンター化というのがある。

項目	小規模特認校について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年9月18日	川渡公民館	複式学級について、どのように考えているのか。	複式学級であると、教員の負担は大きくなります。教員は工夫して授業に取り組みますが、教員が変わると、授業スタイルも変わりますので、それに合わせる子ども達も大変な事実です。
平成30年9月18日	川渡公民館	私は旧上原分校で、複式学級を体験しましたが、同じ教室で別な学年が授業を行っている間、後ろを向いて自習していた。自習しながら、同時に授業の内容を聞き、復習に繋げていた。また、旧岩入分校では、複式学級でしたが、優秀な人材が育ったということを知ったことがある。	ある程度人数がいる学校であると、我慢するところは我慢する、力を発揮する場面では遺憾なく発揮できるよう、子どもの自主性、環境の変化に対応できる子どもの育成が期待できます。小さい学校であると、大きなところに入っていく時に、どうしても子どもが萎縮してしまう場面を見ることがあります。
平成30年9月18日	鬼首公民館	平成26年度の住民説明会では、鬼首小学校の小規模特認校の検討について、説明されたが、その後、地域住民からどうなったのかと地区公民館に問い合わせが来ることもある。	道路状況が変わり、実際に鬼首地区の中学生がスクールバスで鳴子中学校に通っていることを踏まえ、やはり鬼首小学校を含め、3校での統合が望ましいのではないかと考えています。
平成30年9月27日	幼小中園長校長館長会	仮に鳴子中学校を統合校とした場合、鬼首地区は、鳴子地区及び川渡地区に比べ、通学距離が長いのが心配です。平成26年度に説明のあった小規模特認校の検討はどうなったのですか。	平成26年度の説明会では、確かに小規模特認校の検討についてご説明しましたが、道路が整備され、現在は鬼首地区の中学生もスクールバスで鳴子中学校に通学しています。現状を踏まえ、鬼首小学校を含めた3校での統合を目指し進めていきますが、今後保護者及び地域住民と意見交換しながら、統合校について決定していきたいと思えます。
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	平成26年度の住民説明会では、鬼首小学校の小規模特認校を検討すると説明があったが、資料の保護者の意見を確認すると、鬼首小学校の保護者も統合に前向きに考えているのではないかと。	
平成30年11月12日	川小PTA座談会（川渡地区）	現在の子ども達の学級は、小規模で仲がとて良いと思うが、刺激がないので、何か問題が生じた時に子どもだけで、解決できるか不安に思います。	
平成30年11月12日	川小PTA座談会（川渡地区）	小規模として残していくのであれば、鳴子温泉地域にしかできない独自のカリキュラムを作成していく必要がある。	ご意見として伺いました。
平成30年11月12日	川小PTA座談会（川渡地区）	秋田県東成瀬村のように100人規模の学校でも、学力が高い学校もあるので、参考にしてみてもいいのではないかと。	ご意見として伺いました。
平成31年4月18日	鳴子総合支所説明	以前に教育委員会から、鬼首小学校は、小規模特認校を検討すると説明があったが、川渡小学校と鳴子小学校が統合し、鬼首小学校だけが取り残されてしまうと不安に思う保護者がいる。	ご意見として伺いました。
平成31年4月18日	鳴子総合支所説明	小規模特認校とは、どのようなものですか。	学校の特色をいかし、学区に関係なく、子ども達を受け入れる運営体制の学校を指します。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
項目	人口減・少子化・対応		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年10月12日	東鳴子地域づくり役員会	少子化で小学校の統合はやむを得ないと思うが、市全体で人口減少をどのように食い止めていくのかを考えていく必要がある。	ご意見として伺いました。
平成30年11月6日	川小PTA座談会(沢、石の梅、向山地区)	県又は市の政策で、若い世代が定住する場合もあるので、鳴子温泉地域の活性化を見据え、人口を増やしていく努力も必要だと思う。	ご意見として伺いました。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	鳴子地区の今年の新生児は10人だという。統合してもその人数の子供たちになる。今の川渡小の規模、雰囲気はともよよいと思う。統合した学校同士が統合をすることになるのか。外から人を呼び込むことも考えるべきだろう。市の政策も考えるべきだと思う。	関係各課で努力はしている状況である。
平成31年1月20日	鳴子中PTA役員会	資料を見ると子供の数が少なくてさみしい。自分の子供が統合鳴子中学校第1回の卒業生だったが、そのときは3クラスあった。	
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	子供がだんだん少なくなっていく。複式解消で統合を進めても、5~7年後には鳴子地域の子供の数が減りその時点で複式になるのではないかと思う。	はじめは30人程度だが、減少するのは確かで、5年後くらいまでは子供の数が分かる。他地域での再編に関する話し合いをすると、特色ある学校づくりの必要性ということがでてくる。様々な想定をして考えていく必要があるだろう。いろいろな考えを聞いていい学校づくりを考えていきたい。そういう意味で、可能な限りいろいろと話を聞かせてもらいそれらを入れ込んで、今後は具体案を示していきたい。
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	鳴子中学校の生徒数推移を考えると、将来的にはかなり少人数になるが、岩出山中学校との統合はあるのか。	今のところは鳴子に一つの中学校、岩出山にも一つの中学校という考え方で進んでいる。確かに、鬼首は学校がなくなると住む人が少なくなるだろうと思う。

項目	スクールバスについて		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	スクールバスで中学生と一緒に乗れば、小学生は中学生に面倒を見てもらえるのか。	岩出山地区は小中混乗のスクールバスだが、中学生が小学生の面倒を見るという事はあり得るだろう。保護者からは、スクールバス利用中に中学生が小学生の面倒を見ているという事実を聞いているし、そのようなことが望ましいことだとも考える。
平成30年5月10日	川渡小PTA役員会	小中同じ場所(敷地)の方が不安がでにくいのか。	岩出山地域だと、小中の場所が離れているので登校時は先に小学校、次に中学校へいき、下校時は小学生を乗せてから中学校に行くようにしている。もし小中一貫校で同一の場所に校舎があればバスの運行も効率がよい。スクールバスには運行要件があり、低学年の通学距離が2キロメートル以上、高学年が4キロメートル以上だが、細かなことは保護者の方との協議の上決めていくことになる。また、岩出山地域では学童が各地域にあり、スクールバスがそこまで登録児童を乗車させている。ただ、温泉地区でも統合後、今すぐ学童へ寄りますということではできない。
平成30年9月27日	幼小中園長校長館長会	岩出山小学校のスクールバスの運行状況はどのようになっていますか。	岩出山小学校では、現在12台のスクールバスが運行しています。距離的に真山地区が遠くなりますが、真山地区だけで3台運行しており、一番乗車している子どもでも約40分です。登校時について、一番早い子どもで自宅付近から7時15分にバスに乗車し、だいたい7時55分から8時にかけて、小学校に到着しています。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	南野際地区の子供たちは宮交バスで小学校に通学している。中学生は中学校まで徒歩で通学している。もし、中学校に小学校ができたなら冬場の歩道は除雪をして歩けるようになるのか。また、上原地区の子供たちはスクールバスで中学校に通学している。そのバスに南野際の子供たちも乗せてもらえないか。	通学に関してスクールバスが必要な地域にはしっかりと整備される。ただ、スクールバスの乗車要件として小学校低学年では2Km以上の距離になる。除雪はまず早朝に車道を行い、歩道の除雪は通常日中に行うようだ。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	統合したら夏季休業には、小学生のプール利用はスクールバスを利用することになるのか。	児童数により地区割りでプール利用になる場合もあり、スクールバスの全地区運行は今後の話し合いになるかもしれない。
平成30年11月30日	川小PTA座談会(南野際)	スクールバスでプールに行くようになり、上原からもバスが出るのであれば、南野際の子供たちも乗せられるだろうと思うのだが。学童に行く子供はどうなるのか。	岩出山の例を話すと、夏休みのプール利用時は、学童に往路も帰路も寄って学童経由で子供たちを乗せるようにバスを運行していた。この地域のスクールバス利用については悩ましい問題だ。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	市のPTA連合会の会議に出席しているが、その場で岩出山地域の統合について聞く機会があった。統合してスクールバスで通学してくる子供たちの安全管理が円滑に行われていない状況で、市教委に再三要望しているが市教委は何も対応していないと聞いている。子供の見守りのためのボランティアがなくて、かといって保護者は仕事の時間上でできない、学校の先生方もできない状況だという。子供の安全管理が第一だと思うので、その点、鳴子温泉地区の統合がなされたときに市教委としてしっかりと取り組んでもらえるのか。	スクールバスについての話しはずいぶんしてきた。岩出山小学校前の道路は子供たちの安全確保のために、朝7:30~8:30は車両通行止めになっている。バスから降りて学校へ向かう児童見守りのボランティアを保護者に呼びかけてきたが、朝の時間帯は仕事で出られない保護者が多い。その中でも5、6人の保護者にはボランティアとして見守りをしてもらっている。地域へも呼び掛け、岩出山の方々には可能な範囲で出ている。自分もバスの乗降場所で安全のための誘導を行っている。小学生が乗るスクールバスは12台運行しており、そのうち小中混乗のバスは10台ある。小学生のバスマナーは高学年や中学生に指導・面倒を見てもらうようにしている。下校時のバスは2便ある。火曜日は更生保護司会女性部の方が3名いらして手伝ってくれている。学校の教職員は統合したことにより増員している。養護教諭は2名体制で、加配もあり、落ち着きのない子供への対応もしている。スクールバスについては車内の安全管理を行う同乗者を採用できないかという話があったが、これまで培ってきた小学生の縦割り活動、先輩の中学生が小さい子供たちの面倒みること、子供たちの成長も期待できる。教育委員会として何もしていないということではない。できることは努力している。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	中山地区ではスクールバスとして乗用車を運行させているようだ。学校の近くでも地区によってはスクールバスの利用を望んでいるところもあるようだ。	基本的なルールがあるのでそれに従う。
平成31年3月22日	川小PTA座談会(上原地区)	上原地区はスクールバスが運行されているのであまり心配はしていない。決まった時間に子供たちが帰宅できるのはありがたい。	
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	鬼首の子供は遠い道のりをバスに乗車することになるので、丁寧に考えなければならない。	
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	スクールバスだと休憩ポイントが必要ではないか。	岩出山の場合は、真山コースの道のりが長いので、スクールバス運行経路沿いの企業に万が一の時に休憩させてもらうお願いをした。
平成31年4月10日	鳴子地区小中学校の校長先生方への説明	中学校になると鳴子中学校に通学するので、早く鳴子に来たいと思う人が多いだろうと思う。鬼首小は地域の中の学校なので、なくなると寂しいと思う。スクールバス乗車は低学年児童にとっては大変だろう。サポートが必要だろう。また、現状では教室が足りないので増築しなければならない。	鬼首小の子供の居住地分布が今は、学校周辺だけだが、今後、どこの地区に子供が生まれるか分からない。学校から遠くに居住する子供のこと考えなければならないし、パイパスができて鬼首が近くなったとは言え、低学年にとっては長時間バスに乗ることは大変だろうと思う。大枠で統合の合意を得て、詳細はその後に詰めていきたい。
平成31年4月18日	鳴子総合支所説明	鬼首地区の小学校低学年が現在の鳴子中学校に通うことになった場合、パイパスを通ることで、あまり負担に思うことなく、通学が出来ると思う。	

項目	整備指針の見直しについて		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年9月18日	鬼首公民館	大崎市学校教育環境整備指針を策定してから数年経過するので、内容を見直す必要があるのではないかと。	ご意見として伺いました。

項目	説明会について		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年7月20日	川渡幼稚園保護者会	地域の方の参加が少ないことが予想される。	周知、参加方法なども工夫していきたい。
平成30年9月18日	川渡公民館	幼稚園の懇談会は今年度に入って開催したのか。	今年度に各小学校で保護者全体説明会を開催させていただきましたが、川渡幼稚園の保護者から説明依頼の要望がありましたので、7月20日に開催させていただきました。いずれは、日程を調整し、カトリック保育園、鳴子保育園でも開催していきたいと思っております。
平成30年9月18日	川渡公民館	平成26年度の説明会は、地域住民及び保護者への説明会を別々に開催しているが、参加人数が少ないので一緒に開催してみるのはいかがでしょうか。	地域住民、保護者の視点がそれぞれ異なるので、まずはそれぞれの意見を吸い上げ、いずれは地域住民及び保護者が一緒に検討する合同検討会に繋げていきたいと思っています。
平成30年9月18日	鬼首公民館	保護者は、放課後に子どもを預けられる環境を望んでいる。	鬼首小学校の保護者との意見交換した際に、同様の意見が出されました。
平成30年10月11日	鳴子地域づくり役員会	鳴子温泉地域の中学校の統合の時は、統合が決定してから、住民に対して説明していたので、事前に周知をしっかりと行い、説明会を開催していただきたい。	ご意見として伺いました。

日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年10月15日	中山コミ連役員会	統合問題は地域にとっても、重要な問題なので、住民感情に配慮しながら、具体的な資料で丁寧に説明していただきたい。	ご意見として伺いました。
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	地域の皆様には説明しているのか。	各地区振興協議会やまちづくり協議会の会長、役員の方々には現在説明しており、いずれは地域住民全体を対象とした説明会を開催していきたいと思います。
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	これから小学校に入学する保護者の意見も吸い上げてほしいと思う。今ここで小学校に児童のいる保護者に、統合はどうでしょうと問われてもしょうがないのではないか。これから小学校に入る保護者への説明をしていただきたい。	川渡幼稚園にも説明に行ってきた。これから、カトリック幼稚園、鳴子保育園にも機会を捉えて説明に行きたい。
平成31年1月23日	鬼首小PTA役員会	鬼首小学校はいつか統合されるだろうとはみんな考えているだろうと思う。子供たちも徐々に減少してくるだろうと思っている。でも、前回、保育所がなくなったときにはその過程の情報が伝わらず大変驚いた。説明をしてもらった方が良い。小学校がこの地区なくなると鬼首に戻る人がますますいなくなる。学校がないところにお嫁さんを連れてくることはないのかもしれない。	

項目	地域づくりについて		
日付	会議名	意見・質問	回答・参考情報
平成30年9月18日	鬼首公民館	今後、子どもが増える見込みがないことから、小学校の統合はやむを得ないと考える方は多いと思いますが、閉校後の地区の在り方を考えていく必要がある。	
平成30年11月21日	川小PTA座談会(黒崎・小身川原)	学校の統合問題について、地域から学校が無くなると子どもが少なくなるので、地域が廃れると思う方がいるのであれば、それは子どもを束縛していると思う。	